



富山県造形教育連盟会報「糸」について

富山県造形教育連盟は、幼、小、中、高の先生方が参加する、県芸術文化協会に加盟の文化振興の任意団体です。造形活動で大切にしたい発達段階という縦のつながりを考えることができる研究組織です。各校種の研究団体の横糸と、県造連の縦糸により、造形教育という織物が美しくつくり出されることを願い、会報を「糸」発行しました。本連盟の会員限定ページにて公開します。

## 感じる心をいつまでも 副会長 福岡高等学校 安部紀孝

総じて子どもの描いた絵やつくったものには何とも言えない魅力がある…と感じています。そこには大人が思いを巡らす範疇を超えた子どもならではの意外性のある不可思議な世界がある…と感じます。

みなさんよくご存知のピカソは、「子どもは誰でも芸術家だ。問題は、大人になっても芸術家でいられるかどうかだ。」と言っています。子どもはいい意味で怖いもの知らずで好奇心旺盛で何でも興味関心のあるものに突き進んでいくようなところがあると思います。一方、大人は常識、先入観、固定概念、慣習といった現実のしがらみから抜け出せずにいるのでは…？

こんなことを聞いたことがあります。印象派を代表する画家モネの「睡蓮」を子どもたちが鑑賞していた時のことです。ある子が「カエルがいるよ。」と言います。しかし、絵の隅々まで見渡してみても、どこにもカエルなんて見当たりません。すると「水の中を泳ぐカエルがいるよ。」とその子が言います。なるほど鑑賞することは、実際に見えないところまで自身の想像を広げることなのだ気づかされます。なんと豊かな感受性でしょう。そこには、作品の解説は必要ないのかもしれないかもしれません…!?

隠れて見えないところを見る想像力の深まりが、時間や空間に広がりを与え、何よりも感じる（感受する）自身の世界を広げてくれます。誰もが幼い頃、無意識のうちに持っていたであろう純粋な感覚をいつまでもいつまでも持ち続けたいものです。

## 造形教材研究会での題材紹介

富山大学教育学部附属中学校 宮田苑住

小学校高学年向けの授業として、水墨画の授業を提案させていただきました。水墨表現の面白さは、予想外の表現が生まれやすいところにあります。思い通りの表現にならないことの方が多いですが、それを楽しめる雰囲気をクラスに作っていくことが大切です。授業の終末には、できた作品をただ鑑賞するのではなく、服の型に重ねて作品を見るなど、一工夫して鑑賞活動を行えば、墨の形や色とイメージを関連付けしやすくなると思います。



発問例  
「この服はどんな雰囲気？」  
「どんな人に似合いそう？」

## 実践紹介 氷見市立窪小学校 蟹谷 智

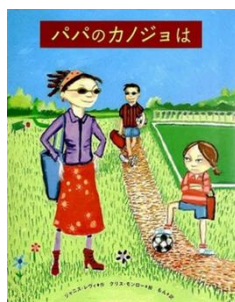
7月26日(水)に氷見市小学校教育研究会図画工作科部会実技研修会が氷見市立十二町小学校で行われた。「布きれや液体粘土を使った平面絵画づくり(第4学年題材「これでえがくと」)」をテーマに、講師の橘慎也さんと実技研修を行った。氷見市の図画工作科部員以外の方を含め10名が参加した。まず、橘さんから、液体粘土の特長や液体粘土と各学年との関連性について教えていただいた。液体粘土の活用には、①描画材として使う②モデリング材として使う③コーティング材として使うことの3種類があり、各学年の教科書題材に沿いながら活用法を学んだ。その後、液体粘土を使った平面絵画づくりや立体作品づくり、造形遊び等の実技研修を行った。参加者は、液体粘土の感触を楽しんだり、絵の具を混ぜて色を塗ったり、布きれを接着したりするなど、思い思いに参加者同士で話し合いながら作品づくりを進めた。実技を通して、液体粘土の面白さや活用の難しさを味わうことができた。目の前にいる子供を思い浮かべながら、早速2学期から指導に当たりたいと思った。



## おすすめの読書紹介 副会長 堀川幼稚園 浪岡伸郎

『パパのカノジョ』は 作：ジャニス・レヴィ 絵：クリス・モンロー

私は、幼稚園の園長ですので絵本を紹介します。「パパのカノジョは」という題名と表紙からどのような内容の物語を想像されるでしょうか。日本の絵本には見かけない題名だと思います。離婚したパパとふたり暮らしの私が、パパの新しい彼女をチェックします。前半は個性的な今度の彼女が描かれますが、後半はいろいろな状況下での私との接し方が描かれています。親として、先生として、子どもたちと関わり方をパパの新しい彼女は示してくれます。何度読み返しても、いつの間にか背筋が伸びています。一度読んでみてください。



## 〈随想〉 体験型アート展へ

射水市立歌の森小学校 片岸 昭子  
家族と久しぶりに美術館へ行った。作品を見るだけでなく、自分の体を動かしたり、ボールを投げたりするなどして、光や映像で遊ぶ体験型のアート展であった。自分の動きが映し出される映像が、作品となる。小さい子供が目をはなれて動き回り、大人も夢中になって体を動かして、作品と一緒に見る。偶然同じ場所に居合わせた人と一緒につくりあげる楽しさも味わうことができた。美術館で作品をじっくり鑑賞するのも好きだが、鑑賞している自分が、作品の一部となる貴重な体験もよかった。